

天白川の 魚・生き物

約20年ほど前までは、川の水が汚れていました。下水道が整備されたことで、きれいな水になってきて、昔たくさんいた魚たちが帰ってきました。今では自然循環もうまくまわりはじめて、色々な魚たちが住んでいます。

けれども、外来魚のブルーギルやライギョやアカミミガメなどが増えてきて昔からいた魚たちが、追いやられてきています。



オイカワ(コイ科)

産卵期の雄は青緑と赤色もようが体側に表れる。川底の砂利に産卵するので、産卵期の川底がきれいなのが大切である。天白川では、代表的な魚である。

タモロコ(コイ科)

水草に産卵するので、水草が豊かなところではよく見かけることができる。体側に1本の太い縞があり少しずんぐりしている。モロコには沢山の種類がいる。

カマツカ(コイ科)

成魚は体長10cmほどにもなる。危険が近づくと砂にもぐり身をかくす習性がある。砂といっしょにエサをすくいこみ、砂はエラから出す。天白川では秋口によく見かけるようになってきた。

ヨシノボリ(ワシヨシノボリ)(ハゼ科)
流れのゆるやかな淡水域に生息する。藻や水生昆虫などをエサとしていて、体側に横斑がつながって並び斑紋には地域差がある。ヨシノボリ種は沢山の種類があり、誤って判断されやすい。天白川でもときどき見かけるようになった。

モツゴ(コイ科)

タモロコより口先がとがっていて、ウロコ模様がややはっきりしていてスマートである。産卵時期のオスはテリトリーをもち、他の魚にたいして攻撃的と言われている。

カダヤシ(カダヤシ科)

全長3cmほどでメダカと間違えやすい。雑食性で特にボウフラなど好んで食べるので、この名がついた。もともとはアメリカからの外来魚。メダカとは尻ビレが丸いところで見分けると良い。繁殖力が強く、メダカが追いやられている。

スジエビ(テナガエビ科)

体が透明で黒いすじが目立つ。産卵期は5〜7月で、天白川では水草のあるところで、よく見かけることができる。

ライギョ(タイワンダジョウ科)

カムルチーとも呼ばれ、外来魚でブルーギルと同じように強い肉食性で、従来種が追いやられている。体は細長く成魚は、50cm程になり体に斑点がある。天白川でもよく見かけるようになった。これは、退治したい種である。

ギンフナ(コイ科)

雑食性で4〜6月頃水草に産卵する。産卵が少なく産卵後生息しにくい。産卵のみで子孫をのこすことができるめずらしい魚です。淡色体が多いことから、これができると言われている。フナはいろいろな種があり区別はむづかしい。コイとは口とヒゲのありなしで区別する。

ブルーギル(サンフィッシュ科)

外来魚で、体型は鯛に似て、横帯のしま模様がわかりやすい。従来種を追いやり繁殖力が強い。天白川でもよく見かけるようになった。捕獲したら退治することが望ましい。

ナマズ(ナマズ科)

全長50cmほどになるものもある。夜行性で小魚やカエルなどを食することもあるといわれている。流れの弱いところで、ときどき中型のものを捕獲するときがある。

アメリカザリガニ(ザリガニ科)

アメリカからウシカエルのえさとして輸入されたと言われている。巨大なハサミで魚や水生昆虫・植物などを食する雑食性。流れの少ない泥底に穴をあけて生息する。

川をながれて...





天白川の野鳥



天白区を流れる天白川で見られる鳥の種類は四季を通じておよそ35種類前後です。

上流域から下流域まで色々変化に富んだ野鳥がみられます。

バードウォッチングのマナー やさしいきもち

- ① ～野外活動、無理なく楽しく
- ② ～採取は控えて、自然はそのまま
- ③ ～静かに、そーっと
- ④ ～一本道、道からはずれないで
- ⑤ ～気をつけよう、写真、絵画、人への迷惑
- ⑥ ～持って帰ろう、悪い出とゴミ
- ⑦ ～近づかないで、野鳥の巣



アオサギ(サギ科)

通年

日本にいるサギでは一番大きい。一年中見られ高い木のある林で集団で営巣する。



セグロセキレイ(セキレイ科)

通年

ジージージーと濁った声を出す。一年中同じ所に留まる日本の固有種。



ハクセキレイ(セキレイ科)

冬

顔と腹は白くチュチュン、チュチュンと澄んだ声で鳴く。冬、市街地の街路樹や橋の下に集団でねぐらをとる。



カワセミ(カワセミ科)

通年

河川、湖沼、池などの水辺の枝や杭から水中に飛び込み魚を採る。水上すれすれを飛びながらチーッと鳴く。「水辺の宝石」とよばれ広く親しまれている。天白川ではどの流域でも見かけるチャンスはある。



ダイサギ(サギ科)

秋

白サギの仲間では一番大きい。夏羽では背中に美しい飾り羽が生えてくちばしが黒く目先は青緑色になる。



ウグイス(ヒタキ科)

通年

春はホーホケキョとさえずるこの鳥も秋から冬はチャップ、チャップと鳴く。これをせせりぎと書く。



カルガモ(ガンカモ科)

通年

一年中見られる渡りをしないカモ。都市部でも繁殖する事がある。ほかのカモと違ってオスとメスが同じ色。



モズ(モズ科)

秋

秋にキーキークイキークイと高鳴きをする。尾をゆっくりと回すように動かして電線や杭から獲物を狙う。



ムクドリ(ムクドリ科)

通年

尾は短めで体は灰黒色で頭部と翼は黒い。一年中見られる。市街地でも繁殖している。秋、冬は集団でねぐら入りする。



ホオジロ(ホオジロ科)

春

川原、草原、耕作地など明るい所を好む。スズメよりも一まわり大きく尾は長め。電線やアンテナで胸を張ってさえずる。



ジョウビタキ(ヒタキ科)

冬

スズメと同じ大きさ。冬、日本に渡ってくる。オス、メスがそれぞれ縄張りを持って暮らしている。



キセキレイ(セキレイ科)

冬

平地から山地の林、溪流などにおいて水生昆虫類を採食する。繁殖期には電線や屋根できれいな声でさえずる。